

平成30年度 業績表彰一覧

| 発信・表彰部門 | | | |
|--|------------------------------|--|---|
| No. | 受賞者/団体 | 推薦者 | 概要 |
| 「広報写真ギャラリー2019」掲載 | | | |
| 1 | 広報広聴課 川口真由 関口達哉 | 広報広聴課 小林弘幸 | 公益社団法人 日本広報協会が発行する自治体広報専門誌「広報」2019年1月号の企画「広報写真ギャラリー2019」に応募した1枚の写真が、その技術が認められ、「あの日 あの時… 思い出の一枚」のコーナーで紹介された。 |
| 第31回近畿市町村広報紙コンクール受賞 | | | |
| 2 | 広報広聴課 | 広報広聴課 小林弘幸 | 毎日新聞社主催「第31回近畿市町村広報紙コンクール」で優秀賞を受賞した。 |
| 平成30年度全国広報コンクール広報企画部門入選 | | | |
| 3 | 広報広聴課 人事課 いこまの魅力創造課 | 人事課 鎌田明年 | 2013年から採用試験改革に取り組み、広報面では志望者の生駒市への認知深度に合わせたコミュニケーション戦略を取ることで、幅広い認知を獲得するとともに質の高い受験者の確保に貢献した。また、その取組が認められ、平成30年度全国広報コンクール広報企画部門において入選した。 |
| IKOMA SUN FESTA | | | |
| 4 | いこまの魅力創造課 | いこまの魅力創造課 赤松亮 | 「IKOMA SUN FESTA」は市内の人気店や起業家、市民団体が集まり「生駒の魅力」を提供するイベントで、来場者数は3年連続1万人を超えている。フォトジェニックな空間演出等、楽しさ・面白さを感じることで出来る仕掛けを散りばめ、生駒の良さに気付いた人が、SNSを通じてまちの魅力を発信し、まちの価値をあげる場となっている。出店料の確保や協賛企業の募集など、財源の確保にも努めている。アンケートでは、9割以上の方が「会場の雰囲気」「イベントの内容」とともに「満足」と回答。来場者だった人たちが、イベントの担い手となるケースも多く、市民の自己実現の場としても機能している。 |
| 介護予防・認知症対策の事業施策に係る体系的な構築と実践展開 | | | |
| 5 | 福祉健康部 田中明美 | 福祉健康部 影林洋一 杉浦弘和 地域包括ケア推進課 後藤治彦 | 介護保険事業、地域包括ケアの20年以上にわたる取組について、現場から得た知識経験を基に、介護予防や認知症対策の事業施策を体系的に構築し、実践展開している。また、これらから得た知見について、全国の自治体、関係機関からの依頼に基づき、研修会等で講師を務めるとともに、国や研究機関の委員としても、地域、現場の声や課題、改善方策を積極的に情報発信し、国の政策動向にも影響を与えている。 |
| 第6回奈良県市町村政策自慢大会特別賞 | | | |
| 6 | 生涯学習課 西田依梨香 | 生涯学習課 向田真理子 | 「第6回奈良県市町村政策自慢大会」で「IKOMAサマーセミナー／だれでも先生、だれでも生徒。」をテーマにプレゼンを行い特別賞を受賞した。まちづくりへの市民参加に対する生駒市の特性や先進性、意義が参加者により伝わるように工夫し、その強い気持ちと努力が受賞に結びついた。入庁一年未満にもかかわらず、物怖じせず、何事にも積極的にチャレンジをする前向きな姿勢は、日常業務においても十分発揮されている。 |
| 胸骨圧迫による血液循環装置作成 | | | |
| 7 | 消防署 米田翔一 松田知明 | 消防署 佐々木一智 | 消防職員の企画力・創造力・提案力向上のため、第58回全国消防長会東近畿支部消防研究会に積極的に取り組み、「胸骨圧迫による血液循環装置」を作成し披露した。作品は血液の流れを分かり易く説明する装置であり、市民等を対象とする救命講習等で血液の流れを見ながら説明できるようになった。 |
| 平成30年度全国消防長会東近畿支部消防技術研修会参加 | | | |
| 8 | 消防署 南畑哲史、岡昇、 米田翔一、松田知明 | 消防署 川端信一郎 | 平成30年9月20日及び21日に京都市消防活動総合センターにおいて、平成30年度全国消防長会東近畿支部消防技術研修会に本市の代表として出場し、優秀な成績を収めた。 |
| 市民協創部門 | | | |
| No. | 受賞者/団体 | 推薦者 | 概要 |
| 各種訓練及び防災講座におけるコーディネート・アドバイス活動 | | | |
| 9 | 防災安全課 南田和佳子 | 防災安全課 杉原廣重 | 平成25年度から防災業務に従事し、自治連合会をはじめ各地域の自主防災会や各種団体等へ防災意識の高揚を常に意識し、各種訓練や講座について、それぞれの地域（自主防災会等）のニーズに合わせた内容のコーディネートやアドバイスなど、年間を通じて丁寧かつ積極的に実践している。地域や各種団体等からの信頼は非常に厚く、また、各種訓練等を通じて協働や連携を深めたことで共助意識の高まりや行政側との良好な関係を築いた成果は大きく、職員の模範となる行動を示した。 |
| 市長賞 シビックパワーバトル大坂夏の陣 | | | |
| 10 | いこまの魅力創造課 | いこまの魅力創造 大垣弥生 | まちの魅力をデータを活用して発信するプレゼンバトルで、生駒市チームは最優秀賞である「プロフェッショナル審査員賞」を受賞。NHK、朝日新聞など各種メディアに掲載された。官民の垣根を越えたチームを編成し、参加者一丸となって、自然や行政施策だけでなく「生駒ではどんな暮らしができるか」を追求しアピールした。またホストシティとして事務局業務も進行し、神戸市、京都市、尼崎市、枚方市、ヤフー㈱とともに前例のない広域プロモーションにチャレンジした。 |
| ライフスタイルブック「まんてんいこま」及び交流促進事業「生駒を楽しむオトナ女子会」 | | | |
| 11 | いこまの魅力創造課 | いこまの魅力創造課 須田千尋 | ライフスタイルブック、交流促進事業とともに、30～40歳代の女性をターゲットに実施し、市内の女性たちと企画・運営した。生駒ならではのライフスタイルを都市ブランドとして編集・発信しながら、シビックプライドの醸成・まちづくりの担い手育成を実現。事業の参加者は、その後地域活動に参加したり、参加者同士で新しい活動をはじめたりと、市民主体のプロジェットの創出にもつながった。一連の取り組みは、朝日新聞で「ママの毎日輝き出す」として掲載、毎日放送・奈良テレビなどでも特集されただけでなく、自治体プロモーションの先進事例として認められ、地域活性化センター土日集中セミナーや公共コミュニケーション学会関西支部等での事例発表につながり、本市のイメージ向上に寄与した。 |
| 「身軽・気軽・手軽」をキーワードに「いきいき百歳体操」の普及活動 | | | |
| 12 | 地域包括ケア推進課 | 福祉健康部 田中明美 地域包括ケア推進課 後藤治彦 | 「いきいき百歳体操」は、社会福祉協議会や地域包括支援センターとも協働で働きかけを行い、現在では自治会・民生児童委員・老人クラブ連合会といった様々な場で、70グループ・1,159名の方が自主的かつ継続的に取り組んでいる。一つ一つのグループに伺い、市民と交流し続けた積み重ねが、大きな成果へ繋がった。この事業は職員のみならず、民間の介護事業者や市民ボランティアの参加等総勢120名の協力を得ることで参加者1人1人が安心して参加できる環境を整えている。 |
| 地域ワークショップ（ミライ会議）の企画・立案・実行 | | | |
| 13 | 都市計画課設計係 都市計画課住宅政策室 | 都市計画課 有山将人 | 地域の暮らし方や住まい方に視点を置き、まちにより楽しく住み続けるためにはどのようにすべきかを、地域の将来課題を踏まえたうえで地域住民自ら考え行動に移す地域ワークショップ（ミライ会議）を企画・立案し、実行に移している。チーム一丸となった入念な準備、検討のもと、内容の充実したワークショップを所属職員が積極的に地域住民と深く協働、連携しながら当初の目的達成に向け、取り組んでいる。 |

平成30年度 業績表彰一覧

| チャレンジ部門 | | | |
|------------------------------------|--|-------------------|--|
| No. | 受賞者/団体 | 推薦者 | 概要 |
| 「初級技術職員研修」及び「労働安全衛生法研修（3科目）」の企画・実施 | | | |
| 14 | 契約検査課 | 契約検査課 黒松裕喜伸 | 「初級技術職員研修」は、技術職員として周知すべき契約約款や関係法令を、工事の監督業務と連動させた内容である。「労働安全衛生法（3科目）」は、専門業務に従事する職員を対象に、構造計算・安定計算・作業計画を考えてもらう内容とした。いずれも、業務に直結した内容になるよう工夫し、専門職員のスキルアップに貢献した。 |
| 都市活力協創サイト「good cycle ikoma」 | | | |
| 15 | いこまの魅力創造課 | いこまの魅力創造課 大垣弥生 | 生駒の魅力伝えるポータルサイト「good cycle ikoma」を開設。このサイトは「転入者向けのPRサイト」にとどまらない。「伝える」「知る」だけでなく、「つながる」要素も含め、少し先の生駒を見せながらまちづくりの方針を伝えている。 生駒の「ヒト・モノ・コト」を伝えるサイトであること、いこま宣伝部の皆さんが編集会議から参加して協働でつくっていること、障害者優先調達推進法に基づき「あたつく組合」に委託した事業であることが全国的にも稀な事例である。 |
| いこま親子写真部 | | | |
| 16 | いこまの魅力創造課 | いこまの魅力創造課 上野貴之 | 写真を通じて生駒の魅力や愛着・誇りを醸成することを目的に、小学校4年生～6年生の児童とその保護者を対象に実施。コミュニティ助成を活用し市単費なしでの実施や富士フィルムイメージングシステムズからカメラを貸与いただくなど、費用対効果を高めつつ、参加者の満足度を向上し、参加者のまちに対する関心や主体的な活動を引き出す高い効果を出すことができた。当事業で得たノウハウは、今後官民での連携時など様々なテーマ・分野に応用が可能なモデルの創出という意味でも大きな成果を得た。 また、参加者が活動内で制作したポスターがきっかけで、100円商店街の魅力伝えるツールとして派生するなど事業の広がりも生まれた。 |
| コンビニ交付率全国1位 | | | |
| 17 | 市民課 | 市民課 藤本清夫 | 今年度は新たに市民サービスコーナー等で臨時休日出張窓口を開設するなど積極的にマイナンバーカードの交付促進を行い、様々な機会をとり交えてコンビニ交付の利便性をPRするなどした結果、平成29年度に引き続き人口1人当たりのコンビニでの証明書交付通数が全国1位となった。 |
| 市長賞 社会福祉施設による都市公園の占用と障がい者の活躍の場づくり | | | |
| 18 | みどり公園課 障がい福祉課 | みどり公園課 知浦太一 | 平成29年度の都市公園法改正を機に、都市公園の新たな使い方として公園施設であるレストランを社会福祉施設（占用物件）として明確に位置付けることで、市が進める障がい者の活躍の場づくりや就労支援をさらに推進することにチャレンジした。その結果、平成30年9月から、ふれあいセンターレストランを中心に、社会福祉法人育業に金の障害者福祉サービス事業所（生駒事業所）の占用を実現することができた。また、この事業を広く市内外に発信するため、平成30年11月にシンポジウムを開催し、78団体110人の参加者に、この取組を周知することができた。 この事業は、改正都市公園法のもとで、全国で初めての取組（障害者福祉サービス事業所の都市公園の占用許可）として、国や奈良県からも関心を向けられた。 |
| 市長賞 「いこま空き家流通促進プラットフォーム」の活用 | | | |
| 19 | 都市計画課住宅政策室 | 都市計画課 有山将人 | 今後の人口減少と高齢化による急激な空き家の増大を見据え、不動産関連団体で構成される「いこま空き家流通促進プラットフォーム」を平成30年5月に立ち上げ、空き家対策に取り組んでいる。 この取組は全国初の取組であり、平成30年度発行の国土交通省ガイドライン「空き家所有者情報の外部提供に関するガイドライン」に先進的な取組として紹介されている。 上記取組スキームは、平成29年度の国土交通省による「民間事業者と連携して空き家所有者情報を活用するモデル事業」として採択のうえ検討されたもので、「市所有者情報及び民間事業者提供情報の実効的活用スキームの構築」として、国土交通省ホームページにモデル的な取組事例としても掲載されている。 |
| 幼小接続事業におけるカリキュラム作成 | | | |
| 20 | 生駒市立きんぎょ幼稚園 | 教育振興部 真鍋宏 | 幼児期の教育と小学校教育の育ちをつなぐ幼小接続事業において、私立いちぶちどり保育園、香分小学校とともに、子ども、保護者が安心して就学できる幼小接続について3校間で協力研究し、香分地域の子どもの実態を踏まえた接続期のカリキュラム作成に対して成果をあげた。 |
| 英語教育推進のための教材・CAN-DOリスト・カリキュラム作成 | | | |
| 21 | 生駒市英語教育推進委員会 教育指導課 八代大輔 | 教育振興部 真鍋宏 | 平成29年度に開催した英語教育推進委員会において、小学1,2年生用に生駒市独自の外国語教材（外国語教材（READY...GO!①②））を作成し、平成30年度から市内小学校において外国語活動の授業の円滑な実施に貢献した。 また、今年度は同推進委員会で小学1年生から中学3年生までの9年間を通したCAN-DOリスト並びにカリキュラムを作成し、CAN-DOリストで「中学校卒業時の目指す子どもの姿」を掲げ、全学年ごとの目標を示すとともに生駒市の英語教育の全体像を示した。 |
| 消防法令違反の解消と新たな消防広報活動への取組 | | | |
| 22 | 消防本部予防課 今里考志 黒田享司 | 消防本部予防課 西川勝也 | 従来行政指導で留まっていた消防法令違反の是正に対して、昨年度から命令や告発を視野に是正が進んでいなかった市内事業所の是正に集中的に取り組み、多くの事業所の消防法令違反を解消した。 また、違反処理に関する事務の効率化を図るとともに、予防課の通常業務についても業務の見直しを率先して進めた。 応募の少なかった市内小学4年生、5年生、6年生を対象とする火災予防ポスターを廃止する一方で、市内で新築工事現場事業所とコラボレーションした掲示物を作成・掲出し、工事現場関係者及び付近住民を含む通行人への住宅用火災警報器の設置や、救急車の適正利用など消防をアピールする新たな広報活動に取り組んだ。 |
| 災害支援・善行部門 | | | |
| No. | 受賞者/団体 | 推薦者 | 概要 |
| 生駒駅での救出活動 | | | |
| 23 | 防災安全課 南本一樹 | 防災安全課 杉原廣重 | 平成30年11月15日（木）の勤務終了後、帰宅途中の生駒駅ホームにてホームからの転落者を自身の危険を顧みず、また躊躇することなく迅速な行動により救出し市職員として模範となる行動を示した。 |
| 平成30年7月豪雨への災害派遣 | | | |
| 24 | 介護保険課 原木奈緒美 | 介護保険課 近藤桂子 | 平成30年7月豪雨による被災地への保健師派遣に従事し、平成30年7月21日から7月26日の期間倉敷市連島南中学校にて住民への衛生指導並びに健康管理に尽力した。 |
| 平成30年7月豪雨への災害派遣 | | | |
| 25 | 上下水道部工務課 西秀明 辻本耕久 | 上下水道部工務課 岡村洋宏 | 平成30年7月豪雨により大きな被害を受けた岡山県倉敷市真備町へ、公益財団法人日本水道協会奈良支部より応援給水の派遣要請があった際、率先して派遣を志願し、平成30年7月17日から平成30年7月20日まで被災地にて応援給水活動を行い、災害復旧に尽力した。 |
| 平成30年7月豪雨への災害派遣 | | | |
| 26 | 消防本部予防課 中嶋拓己 消防署 堂前睦巳、盛彦彦、 荒木秀之、柏本忍、岡昇、 谷村直樹、小泉隼、佐々野健太、 布施要、松田知明、橋富常人 南分署 森本祐也、岡本拓朗 北分署 梶岡亮宏 | 消防本部 杉本正人 | 平成30年7月5日からの大雨による災害における広島県、岡山県及び愛媛県に対する緊急消防援助隊の活動について、消防組織法第44条第5項に基づく消防庁長官の指示により、平成30年7月7日から7月12日まで奈良県大隊として岡山県倉敷市真備町へ出動し、身の危険を顧みず浸水した家屋より救出者65名、探索活動527件の活動を実施した。 |
| 地域貢献部門 | | | |
| No. | 受賞者/団体 | 推薦者 | 概要 |
| 第27回奈良県消防操法大会（小型ポンプの部）準優勝 | | | |
| 27 | こども課 松田悟 上下水道部総務課 鈴木満也 | 消防本部総務課 桑原充央 | 生駒市消防団機動第4分団に在籍し、現在は班長として地域の安全・安心を守る活動を行っている。また、平成30年8月18日に開催された第27回奈良県消防操法大会（小型ポンプの部）に出場し、生駒市消防団の代表として、昼夜にわたる操法訓練を実施するとともに、大会当日は平素の訓練成果を遺憾なく発揮し、準優勝という優秀な成績を収めた。 |